

視察当日も開館時間の10時を過ぎると、平日にも関わらず多くの親子が訪れ、楽しみながら様々なプログラムを体験していました。図書館ではレファレンスサービスをはじめ、商品データベース化や、本の楽しさを教えるおはなし会の開催など、多くの来館客に対応しているのと同時に、一般図書から紙芝居を含む1,500冊を積んだバスが市内を巡回するなど、来館できない市民まで幅広いサービスを行っていました。また、子育て支援センターでは親子で遊びを通じて、子育ての広報交換を行えることもひろばや、小児科医による発育相談、子育てセミナー等、多岐にわたる事業により、家庭の不安や悩みの解消に大きな貢献がなされていました。

■ 中核市における児童相談所について

金沢市のこども総合相談センター（金沢市児童相談所）は管内人口46万人をカバーし、平成18年度から全国初となる児童相談所設置市として、先駆的な役割を担い現在に至っています。中核市児童相談所ならではの強みとして、管轄区域が市内の行政区域に限られていることから、機動力に富んだ対応が可能となるほか、保健センターや保育所、学校等関係部署が市内部にあるため、密接な連携がとれることなどが大きな強みとして挙げられます。平成28年の改正児童福祉法を受け、本区においても児童相談所の設置に向け取り組みがなされていますが、金沢市では平成17年に児童相談所開設準備室を設置し、業務移管にあたって保育士等を含む児童福祉士候補者3名を石川県に派遣し、実地研修と引継ぎを行い、開設後は2年間所長補佐としてベテランの児童福祉士が県から派遣され、慎重な移管業務が行われてきました。児童相談所設置という困難な業務を行うことを決めた理由の一つとして、「地方分権の実現という視点で市が権限を持つことにより市民福祉の向上につながる」との首長の強い思いがあったとの説明は非常に印象的でありました。

■ 「滋賀の縁創造実践センター」の取り組みについて

同センターは2025年問題といわれる少子高齢化の流れの中で、民間福祉関係者が枠を超えて繋がり「縁」を基に、社会的孤立や生活困窮に陥っている人々がいる現状を見逃さず、地域住民と共に生き生きと暮らせる仕組みを実践するための、推進母体となるべく設立されました。トータルサポートの福祉システム化、制度の充実と制度外サービスへの取り組み、縁（えにし）・支えあいの県民運動の3本の柱を軸におき、それらを実践するための具体的な活動が展開されています。団体会員、法人会員をはじめ個人会員や賛助会員等、それぞれの活動をおこなっている非常に多様かつ多くの会員によって構成されており、精度の高い事業展開が可能な団体であるとの印象を受けました。具体的な事業としては世代間を越えた交流事業をはじめ、障害者や高齢者を対象とした災害時の対応訓練、ひきこもりがちな人と家族の支援や、今や全国的な広がりを見せている子ども食堂においては、さらに内容を充実させ、開設された子ども食堂の数はここ数年、県下で10倍以上の広がりを見せています。「おめでとう」の誕生にはじまり「ありがとう」と看取られる地域をつくるという創設の理念に、同センターの温かく強い思いが感じられました。



■ さいごに…

先日子どもが通う小学校で、父親たちが主催する、夏祭りと星空映画祭が開催されました。2階に案内してくれた仲間が「いい光景でしょ」と言って見せてくれたのが、楽しそうに映画を見ている大勢の子ども達の笑顔でした。地域の大人たちがみんなで子どもを見守り、育てる。その素晴らしさを改めて感じられた素敵な1日でした。

自由民主党 大田区民連合 〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-13-14 大田区役所内 10階
TEL (直通) 03-5744-1480 FAX 03-5703-1472
E-mail: info@t-suzuki.com